



『「はりま自立の家」「しそう自立の家」の これまでとこれから』

社会福祉法人ひょうご障害福祉事業協会
理事 石田英子様

1953年日本で最初の肢体不自由児キャンプが、神戸YMCAと朝日新聞大阪厚生文化事業団により開催されました。その時のキャンプ長は、国際ロータリー理事も務められた故今井鎮雄さん、キャンパーのひとりが当法人の片岡實理事長です。薫陶を受けた片岡理事長が、その後に学生ボランティアを集めて、障害のある子どもたちが地域の中で育てられるようにと、心身障害児福祉協会（現・公益財団法人ひょうご子どもと家庭福祉財団）として活動を始めました。障害児キャンプや戸倉スキー場での雪遊びなどの野外活動、療育訓練の場などを提供してきました。

1970年代は今のようないサービスやヘルパー派遣などの福祉サービスがなく、学齢期を終えた重い障害のある子どもたちの次の進路の多くは管理的な“施設”でした。家庭に代わって安心して楽しく暮らせる場が求められていました。

英国に本部を置くレオナルドチェシャール財団から、管理的な施設ではなく障害のある人が主体的に暮らす場として運営しているチェシャールホームを日本にもつくらないかという働きかけがありました。その理念に共鳴し、日本のチェシャールホームとして設立運営を計画しました。日本の法律に基づき、社会福祉法人ひょうご障害福祉事業協会（理事長 今井鎮雄）としての認可を得て、1981年に「はりま自立の家」（兵庫県宍粟市一宮町 定員50人）を、1985年に「はんしん自立の家」（兵庫県宝塚市 定員50人）を、そして1995年に「しそう自立の家」（兵庫県宍粟市波賀町 定員50人）を開設しました。

「しそう自立の家」は、元兵庫県知事坂井時忠様のご遺族から宍粟市に寄贈された土地に、障害のある人たちのための「自立の家」を作ってほしいと言われて設立したものです。小野川の水音の聞こえる山間の美しい土地でした。

知的な障害のある人たちを中心に、車いすの人々も併せて50人の生活がありました。手芸をしたり、陶芸や木工、農作業をしながら楽しい穏やかな日々を送ってきました。

20年の間に気候変動は急加速し、異常気象による自然災害が頻発しはじめました。ゲリラ豪雨が発生し、加えて人口減少により、山林の手入れをする人も減り、山崩れや倒木の危険が大きくなりました。

2018年7月の西日本豪雨の際に、「しそう自立の家」のすぐ横を流れる小野川の上流の砂防堰堤が決壊寸前となり、入居者職員が全員避難をしました。その年は計6回避難

をしました。安全だった場所は、「土砂災害特別警戒区域」「山腹崩壊危険区域」に指定されました。

避難を繰り返しながら、夏場だけでも安全な場所に一時的にでも移れないかと、宍粟市内の廃校になった学校など、さまざまな場所を探して回りました。

気候変動はすぐに止められるものでもなく、今後も災害の起きる可能性は高いと思われる、自ら行動することの難しい入居者の方々のいのちを守るために安全な場所への移転を決断しました。建物は建替えられるけれど、人のいのちは取り戻すことはできないからです。

資金計画等に時間がかかり、最初の避難から2年経過した昨年夏に移転計画が正式にスタートしました。多くの方に土地を探していただき、宍粟市山崎町に新しい用地を取得して建設計画が始動しました。1000年に一度の洪水予測にも耐えられる設計をしました。約6000平米の土地に、国県の補助金と借入金や募金も加えて総事業費10億円です。

「新・しそう自立の家」は、安全な場所であると同時に、未来に向かって新しい福祉社会の拠点になることを願って計画をすすめています。デジタル化社会の動きに合わせて、AI、ICTの導入も検討しています。

コロナ禍において、自然災害をもたらす異常気象や生態系の崩壊に対峙するSDGsの思想を実践し、障害の有無を問わず、すべての人が“誰ひとり取り残されない”社会の構築に向かって、小さなことから取り組む「新・しそう自立の家」計画としています。

1981年最初のチェシャーホーム「はりま自立の家」建設時には、龍野ロータリークラブのみなさまのご協力をいただきました。今井鎮雄前理事長は、設立理念として次のように呼びかけました。

平和な社会とは、協力の中から生まれる「共に生きる社会」にほかならないと思います。今、私たちはひとつの施設をつくろうとしているのではなく、このような人間の理想社会の建設を夢みながら「自立の家」を建設したいと思っています。

この言葉は、今の困難な社会の中でよりいっそう意義深く響き、我々の目指すところにほかなりません。

新型コロナウイルス感染症の影響を少なからず受けて、本計画は2021年12月完成予定が遅れています。本年3月9日の起工式は感染防止のために内々で行いました。着工後にも課題が次々に出ていますが、一つ一つ向き合って、来年2022年3月には完成予定です。

4月には新しい「自立の家」が誕生します。コンサートや講演会を開催したいと思います。カフェコーナーも設けます。多くの方にお訪ねいただきたいと考えています。

「共生社会」を実現させるために、ぜひごいっしょに歩んでいただきたいと願っています。